

DPRI Award 設立の趣旨および第3回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 西上欽也

防災研究所では、自然災害に国境はないことから、従来から国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなど積極的に取り組んできています。平成22年度からは共同利用・共同研究拠点として認定され、また、平成23年以降2回の世界防災研究所サミットの開催と世界防災研究所連合（GADRI）の設立およびその事務局担当など、頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点としての地位を確立するために、様々な新しい取り組みをしてきています。

これらの一環として平成23年3月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は概略下記のようになっています。

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

平成25年度には第1回の防災研究所国際表彰 DPRI Award をカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に授与いたしました。また、平成26年度には第2回の DPRI Award をメキシコ自治大学教授のサンチェズセスマ博士に授与いたしました。

今回平成27年度の国際表彰について、平成26年10月に防災研究所の多々納教授から推薦があり、表彰委員会で慎重に審議した結果、ウォータールー大学教授のキース・ウィリアム・ハイペル博士を第3回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の受賞者として所長に推薦すること、その賞の副題は「研究教育貢献賞」とすることを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

ハイペル教授は 1946 年カナダに生まれ、1975 年にウォータールー大学工学研究科から工学博士を取得後、1976 年に同大学工学部助手に着任、1981 年に准教授、1985 年に教授に昇任されました。2007 年には大学著名教授 (University Professor) の称号を授与されています。この間、40 年にわたり社会システム工学の第一人者として、社会・技術・環境の間のインターフェイスに内在する複雑階層システムとその問題に対するコンフリクト解決、多属性意思決定分析、時系列分析など常に最先端の学際的研究をされてきました。その研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されています。ハイペル教授は、2013 年からカナダ王立協会科学アカデミーの会長を務められています。また、システム工学の賞として世界最高の評価を得ているノーバート・ウィーナー賞 (IEEE(米国電気電子工学会)SMC 学会、2000 年)、米国水資源協会名誉会員賞 (2011 年)、ジョン・ウィリアム・ドーソン メダル (カナダ王立協会、2011 年) など多くの賞を受賞されています。

防災研究所においては、外国人客員教授として 1999 年度に 8 ヶ月、招へい外国人学者として 2000 年度、2002 年度、2004 年度、2008 年度、2012 年度および 2013 年度にそれぞれ 1~2 ヶ月滞在され、「コンフリクト解決のためのグラフモデル」や「意思決定支援システムの開発」などをテーマに共同研究を進められました。また、これらの研究内容に関連した講義・ゼミナールを行い、社会防災に関係する分野の学生・若手研究者への教育を熱心に行われました。

これらハイペル教授との共同研究や彼の学生・若手研究者への長年にわたる研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。ハイペル教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の DPRI Fellow として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたいと思っています。